

第 158 回 STF 交流会報告 (2025年 6月度)

1. 日時:6月 21 日(土) 14:00~16:30
2. 開場:品川区立総合区民会館(きゅりあん) 5 階第 1 講習室
3. 参加:12 名
4. 話題提供: STF 会員・理事 角野章之氏より以下のテーマについてお話し頂いた。

前半:「南北朝時代とはどういう時代であったのか? そしてその謎は」

- A. 日本の歴史の中で鎌倉時代から室町時代が変わる間(1300年代)の約半世紀「南北朝時代」があまり知られていないことに疑問を持ち独自に調査した結果いろいろ面白いことが分かってきた。
敢えて言えば ① 後嵯峨天皇から後醍醐天皇までの皇統の推移、元弘の変、建武の中興、室町幕府内の対立、観応の擾乱、南北朝合一に至る迄あまりに複雑でドラマ化し難い。② 現在の天皇家にも影響する内容で物議をかもしることになる。
- B. 南北朝対立が長く続いた原因を自分の所感として述べた中で、足利尊氏への評価、楠木正成への評価は興味深い。
- C. 徳川光圀は、楠木正成を再評価し、墓碑を立てた。それが後の維新回天の原動力になった。

後半:「ピラミッド・スフィンクスの追加情報」

昨年暮れ、エジプトを観光で訪問し、真近でピラミッド・スフィンクスを観た。

- A. 観光地を除いては治安が悪い。ピラミッド・スフィンクスのすぐ近くまで住宅地が迫っている。
- B. モロッコとは違って砂漠の見栄えが違う。砂丘ではなく、ほとんどが土漠である。
- B. ピラミッドの下から2段目までは、石灰岩の岩盤を加工している。

5. 補足(碓氏)

- * 南朝の後の後南朝を、応仁の乱(1492年~)の時に西軍(山名方)が担ぎ上げた。これが歴史に出て来た最後であろう。
- * 自天王を持って南朝の系統は切れたと言われているが、現代も、吉野で南朝の伝統をつなぐ儀式が行われている。つい最近、NHKでその儀式を放映していた。

6. 感想:

前半の話は、高校時代から日本史に興味を持ち、時間ある限り、本を読み、自分なりの見解を纏め今回の発表に至ったと言う。趣味の世界とは言え、これだけ詳細に研究した内容は、その道の専門家に正すなり、本にして出版する価値があるとも思われる。

後半の話は、以前、交流会で話した内容を補足する内容であるが、実際に目で見て体感した内容である故説得力があった。

最近の交流会、専門の人に話をしてもらおうと言ったセミナーの形式が多かったが、今回は、会員自身が自分の趣味、経験談、思う事を話し、意見交換するなど本来の交流会であったように思う。今後、このような機会が多くなることを期待したい。

【報告者:山岸 任】

第 158 回 STF 交流会報告 (2025年 6月度)

